

アジアの女性の力を世界へ



アニメを使って分かりやすくデートDVを伝える教材もある。講義を真剣に聞く研修員たち



北九州市の男女共同参画センターなどを視察し、スタッフたちと意見交換



JICAの研修では、カンボジア、コートジボワール、キリバスなど、さまざまな国の研修員が北九州市の人々と交流する機会もあった

女性が輝く社会 共に目指す

女性たちも参加して意見交換が行われている。また、北九州市民に対する情報発信も重要な活動だ。世界、そして自分たちの地域が抱えるジェンダーの課題に目を向けてもらうために、これまでターゲイントークなどでスタディーツアーを実施。今年2月には大学生から60代まで幅広い世代の13人がフィリピンを訪れ、女性や子どもを支援する施設やスマートを視察した。帰国後は報告会を開き、地元の人々に情報を共有している。

さらにKFAWは、これまで約50の途上国からジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進を担当する行政研修員は、「北九州市の保育制度は、お母さんたちのニーズにうまく応えていますね。元気いっぱいに遊ぶ子どもたちの姿を見て、その効果を実感しました」と笑顔を見せた。また近年、北九州市が対策に力を入れているのが、途上国でも日本でも問題となっている女性・女児への暴力防止だ。そこで研修の中にも「『デートDV』をどう予防するか」を盛り込んだ。夫婦間の暴力を指すDVと区別して、10代、20代の恋人間で増えている暴力を総称して「デートDV」と呼ぶ。「暴力といっても、殴る蹴るといった肉体的な暴力だけではないんですね。暴力的な言葉をかける、勝手に携帯電話を見る……。そうした精神的な暴力もデートDVに含まれると聞き、研修員たちは「なるほど」とうなづいていた。

その対策の一つとして、市内の高校や大学などでデートDV防止教室を開く「デートDV予防教育ファシリティー」を養成しているKFAW。若い世代にもデートDVの知識を広め、予防につなげるためだ。ミャンマーからの研修員は、「女性への暴力を防ぐためには、人々の意識を変える啓発活動が効果的だと学びました」と話してくれた。

「教える、教えられるという関係ではなく、知識を共有し、学び合いながらジェンダー問題の解決につなげていきたい」。これがKFAWの願いだ。北九州市から広がったネットワークが、世界のどこでも女性が輝ける社会への道を切り開いていくはずだ。

地理的にも近いアジアと交流しながら、国際都市として発展してきた北九州市。

アジア、そして世界の国々と共に取り組んでいるのが、性別に関係なく、誰もが平等に参加できる社会づくりだ。

[福岡県]

北九州市



福岡県北九州市

面積489.60km²。人口約97万人。高度経済成長期に工業地帯として発展し、大気汚染などの公害に直面。現在は、環境先進都市として生まれ変わった経験を国内外に伝えるとともに、共通する課題の解決を目指して、アジア、そして世界とのつながりを深めている。韓国の仁川広域市と姉妹都市を締結し、女性団体の文化交流などにも取り組んでいる。

ジェンダーの分野では 実は日本も…?

2013年に世界経済フォーラムが

発表した「ジェンダーギャップ指数ランク」での日本の順位だ。これは、

イスランド、フィンランド、ノルウェーと北欧諸国が上位を占め、日本は女性の議員や管理職の割合の低さなどが影響してこの順位になっている。ジェンダーの平等は、日本も改善が必要な課題であることが分かる。

アジアの他の国々でも、女性は教育を受けられなかつたり職に就けなかつたりと、人生の選択肢が限られている場合が多い。この状況を改善したい。そこで立ち上がったのが、アジアとのつながりが深い福岡県北九州市だった。1990年にふるさと創生事業として公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）を設立。日本とアジアの女性が直面する課題の調査・研究、開発途上国の行政官の人材育成、アジアと北九州市の女性たちの相互理解の促進などの活動を続けて20年以上になる。

KFAWの主な活動の一つが、「アジア女性会議—北九州」の開催だ。世界各国からジェンダーの課題に取り組む専門家を招き、「ドメスティックバイオレンス（DV）の予防」や「女性の活躍推進」などをテーマに、アジア地域



昨年の「アジア女性会議—北九州」のパネルディスカッション。「女性の活躍が日本、世界を変える」をテーマに各国からの参加者が議論を交わした